

# 社会公益賞に武田さん

## 高松キワニス ボランティアに尽力

社会奉仕団体の高松キワニスクラブ（佐野正会長）は、長年にわたり献身的な奉仕活動などをした個人・団体を表彰する「第38回キワニス社会公益賞」に、自ら障害がありながら40年近くボランティアの普及と啓発を図る活動を続けている高松ボランティア協会事務局長の武田佳子さん（61）を選んだ。高松市内のホテルで5日、贈呈式を行った。



キワニス社会公益賞を受賞した武田佳子さん（左） 高松市

武田さんは先天性の脳性まひのため言葉がうまく話せないなどの障害があるが、大学生時代にボランティアを経験。「障害者はボランティアにされる立場だが、ボランティアする立場になってみたい」と卒業後、発足間もない高松ボランティア協会に入った。

以来、「障害者や高齢者、そうでない人にかかわらず、みんなが一緒に生きていく、そんな居場所をつくりたい」と活動。同協会事務局長として活動を引っ張り、障害者がつづいた詩に健常者が絵をつける詩集絵本「いっしょに」をすでに6冊発行。福祉だけでなく環境、教育、国際などさまざまな分野で活動する団体などと積極的に交流し、ボランティアの輪をつなげる活動を広げている。

表彰状などを受け取った武田さんは「素晴らしい賞をいただきありがとうございます。大学時代からボランティアに関わってきたが、いつもそばに誰かがいてくれた。受賞を機に母親に産んでくれてありがとう」といいたい。今後も『居場所』づくりを考えて活動したい」とあいさつした。

### ボランティア仲介 武田さん（高松）表彰

キワニス社会公益賞

民間社会奉仕団体の高松キワニスクラブ（佐野正会長）は5日、高松市内で第38回キワニス社会公益賞の贈呈式を開き、同市の高松ボランティア協会事務局長



の武田佳子さん（61）同市塩上町を表彰し、賞状など

どを贈った写真。

同賞は、地域社会で地道に公益活動続ける人をたたえるのが目的。市町教委などから推薦のあった個人や団体を対象に選考している。

武田さんは1979年から同協会に入り、40年近く活動。先天性脳性まひのため、うまく言葉が話せないなどの障害があるが、ボランティアをする人と求める人の橋渡しを続けている。

佐野会長から表彰状を受け取った武田さんは「産んでくれた親に感謝。障害者と健常者が気軽に交流できる場所づくりこれからも尽力したい」と話した。